

特集 新しいダイニングシーン
-DINNING BRAND NEW-

酒場 浮雲

中国菜 智林

ビストロ&バル SPOON+ (スプーンプラス)

CLOSE UP 今秋最大の注目新商品

待望の動物性原材料ゼロ!

ヴィーガン・ベジタリアンメニューに利用できる

「カゴメ野菜だし調味料」デビュー

早速、ハイアットリージェンシー 東京の誇る

和・洋・中3シェフに試していただきました

東京ドームホテル 第16回「夏の特別賞味会」

～三巨匠による食の饗宴～

日世の新商品「ごほうび果樹園」で創作カクテルメニュー



安川哲二の今月の一品 銀座神谷の十二ヶ月



その名も「金／GOLD」と名付けられた日本酒
「梵 純米大吟醸」
 スポーツ祭典で、利用価値大！



純米大吟醸 梵 GOLD
 720ml・1429円
 1800ml・3000円（いずれも税別・写真は1800ml）

すべて、文字通り金賞受賞という快挙を遂げている。

酒名は「梵」。眼鏡で知られる福井県鯖江市の伝統蔵、などと説明しなくとも、国内外の飲食店では実によく知られた存在。なんてたつたって現在102ヶ国へ輸出しているのだから。日本人にも響きのいい「梵」という名前はアジア圏でも認識できる意味ある文字だし、英語名は「BORN」。さすがのネーミング、売れるわけだ。

「純米大吟醸 梵 GOLD」は、マインナス10℃で1年間氷温熟成された無濾過生の純米大吟醸を出荷直前に一度だけ加熱処理をし、すがすがしさと奥深いコクを兼ね添え、飲み飽きしない味わいに仕上げている。小売価格は720mlで1429円、1800mlで3000円（いずれも税別）というお手

頃価格は、飲食店お取り扱い向きじゃなからうか。

インターナショナルなスポーツ祭典を利用する、いやいや、祝うなら、GOLDなどという縁起のいい名前とストーリーをもつことは必須だ。

飲み方は、ワイングラスで和食に合わせてもよし、日本通ならヌル燗体験もよし、ビール好きのラガーファンならソーダ割りだってお勧めだ。フィッシュ&チップスとだって渡り合える味わい。「だまされたと思って一緒にやってみな」と勧めればいい。

公式パートナーやサプライヤーでなくとも、日本の酒と食を広め、売り上げに結びつけるチャンスはいくらでも転がっている。このチャンス、やはり、利用（書きちゃった）しない手はないのだ。

そろそろ開幕する「ラグビー・ワールドカップ2019日本大会」、ワールドワイドパートナーのアルコールメーカーはハイネケンだ。ラグビーファンのビール消費量は半端ないらしい。トーナメントサプライヤーにはSUNTORYも名を連ねているが、これはソフトドリンクオンリー。

TOKYO2020では、ワールドワイドオリंपピックパートナーに天下のコカコーラ、ゴールドパートナーのアサヒビールがビールとワインを供給する。

日本での開催にもかかわらず、日本の酒が公式サプライヤーになっていないのが、なんとも歯痒いのだが、まあ、ラグビーはワールドラグビー国際競技

連盟が、TOKYO2020は言わずと知れた国際オリंपピック委員会（IOC）がなにかも取り仕切るわけで、単に開催地ではない日本の酒や酒文化の発展なんてたいして興味はないだろう（食も食文化も同じらしい）。

だけど、イベントを取り巻くさまざまな場所では、日本開催を祝い、誇り、日本の酒をメインにしてほしい、いや、すべきだ。

外国人にも評判が高く、その名も「金／ゴールド」と名付けられた日本酒がある。おまけに、2019年に開催された数々の国際コンクール（ロンドン・酒チャレンジ、パリ・クラマスタ、テスコム・インターナショナル・ワインアワード（テキサス）、ワイングラスでおいしい日本酒アワード（東京）で